

埼玉経済

企業、団体、商店街などの話題や情報をお寄せください
TEL 048-795-9161 FAX 048-653-9040
ikeizai@saitama-rp.co.jp

未来、自力でつかむ



談笑する埼玉のそな銀行の池田一義社長(左)と丸和運輸機関の和佐見勝社長(右)。6日午後、さいたま市浦和区のホテル

6日、さいたま市内で開かれた豊かな埼玉をつくる県民の集い。2017年新年賀詞交換会には、県内経済界からも多くのリーダーが集った。17年はどんな年になり、どのような事業に注力していくのか。各業界で活躍する経営トップに展望や抱負を聞いた。(三宅芳樹・山田浩美)

▽景気は良くなる
外食事業を展開するハイデイ日高(さいたま市大宮区)の神田正会長は「景気は昨年より良くなる」と予測。会社としては無借金経営になったことを挙げ、従業員の方には今まで会社に尽くしていただいた。かわからはお返しする番。『経済と道徳』をテーマに

福利厚生にも力を入れる」と意欲を見せた。

ガス事業や電力事業などを手掛けるサイサン(さいたま市大宮区)の川本武彦社長は「景気は上向いているが、円安で原材料価格が上がるなど、良い中でも裏腹の要素がある」と気を引き締める。電力・ガス自由化については「ビジネスチャンス。しっかりと進めたい」と意欲込みを語った。

▽攻める姿勢で
丸広百貨店(川越市)の神谷勉社長は「株価は上がっているが、中間層の消費は上向いていない」と業界の厳しい現状を吐露。一方で「免税売上げは右肩上がり。東京五輪に向けて策を打っていく」と述べ、「地域に根ざした百貨店として、お客さまに楽しんで喜んでい

地域創生へ前進

ただけるようなことを、次々に展開していきたくて前を向いた。

物流業を全国展開する丸和運輸機関(吉川市)の和佐見勝社長は、先行きについて「厳しい中にも十分なチャンスがある。それを自力でつかみ取ってこそ長年にできる」と力強い。運輸業界は変化がめまぐるしい。必要なのは「破壊と創造」。過去を壊さないと新しいものは生まれにくい。スピード感を持って実行していく」と意欲を見せた。

工業用ゴム製品の製造・販売を手掛ける朝日ゴム(さいたま市大宮区)の渡邊陽一郎社長は、海外情勢を含めて、先行き不透明感は強いとするも、「自分たちでしっかりと攻めていく」という姿勢が大事。2月には福島県白河市の新工場が竣工(しゅんこう)する。社内を盛り上げ、ワクワクするような年にしたい」と笑顔で語った。

▽ピンチはチャンス
16年は、海外では英国の欧州連合(EU)離脱、米国大統領選でのトランプ氏勝利など、想定外の出来事が相次いだ。国内でもマイナスイノベーション政策が導入され、金融機関にとっては変化の大きい激動の年になった。

埼玉のそな銀行の池田一義社長は「景気回復への期待は大きいだが、不確実要素は多い。変化が起こるのは、当たり前と考える必要がある」とし、「変化は脅威ではなく、チャンス。守るべきところをはっきりと守りつつ、変えるべき点は時代の流れに負けないスピードで自らを変えていけるように変化に挑戦」していきたくて意欲込みを語った。

武蔵野銀行の加藤喜久雄頭取は「先行きの不透明感はぬぐえないが、上向き雇用情勢など好材料もあり、景気は緩やかに上昇していくのでは」と予測。「埼玉真はポテンシャルのある県。当行は今年創業65周年を迎えるが、地域に育ててもらったものを今度は返したい。地域育力で地元を応援していきたい」と述べた。

埼玉信用金庫の橋本義昭理事長は「今年も不透明で不確実性の高い年になるだろう。米国のトランプ次期大統領の内向きな政策の影響も避けられない」と懸念。「しかし、ピンチはチャンス。立ち止まることなく、顧客のニーズに応える新しい提案をし、地域創生のために前進していきたい」と力を込めた。

新年賀詞交換会 交流会